

南アフリカ コロナの後遺症が中国・アジアの柑橘類市場に影響

FreshPlaza 2023年8月21日

中国向け柑橘類の輸出業者らは本サイト(FreshPlaza)に対し、南アフリカ産柑橘類をアジア市場向けに調達するのが難しいと語った。今シーズンは果実が大きく、収量が予想を下回っており、柑橘類の出荷業者らは、黒星病の発生率が高いことに加えて、スペイン産の不足によってヨーロッパで生じた市場機会に対応するため、ヨーロッパ向けの事業で忙しい。

ある匿名希望の中国向け輸出業者は、「しかし、ここ数週間、出荷業者らは東南アジア向けに力を入れているように感じられる。これまでは果実を入手するのに本当に苦労していた。特にオレンジでは、果実のサイズが問題であった。入数77、88、105(15kg/箱)では、中東・ヨーロッパ向けと競合した。これら2つの地域では需要が非常に強くバイヤーは価格を上げることを躊躇しないが、アジア市場の価格設定はそれほど積極的ではなかった」と語った。(以下「」はこの業者の発言)

現在、輸出業者は中秋節の前に到着する最後の果実を梱包している。8月末と9月上旬は、彼らが最も重視している販売期間である。

アジアでの販売は、晩生のネーブル(南アフリカ産栽培品種のカンブリア(Cambria)、ウイト克蘭(Witkran)、ラステンバーグ(Rustenburg))、ミッドナイトバレンシア(Midknight Valencia)及びナドルコット(Nadorcott)によって牽引されているが、今年は9月29日に当たる中国暦の重要な祭(中秋節)の後に果実が到着した場合、それは休暇の期間に当たり、果実の販売に激しいブレーキがかかる。さらに、10月には中国国内産のソフト柑橘類の収穫が始まる。

アジア向け柑橘類輸出は減少傾向

この輸出業者は、同社と業界全体で、中国や他のアジア諸国への柑橘類の出荷が前年比で減少していると話す。ほんの数年前、中国は南アフリカ産果実の最大の市場と見なされていた。この輸出業者は、この現象の理由はコロナ禍にあるに違いないと考えている。

「コロナ後の影響は、過去2年ほどよりも今年の方が具体的に見られた。それは、市場の動向と入荷状況、他の市場からの引き合いの強さの組み合わせで決まると思う。中国の検疫条件に合わせて出荷することには常にリスクがある。中国との間で問題が発生した場合、どこに果実を持っていくのか? そのため、輸出業者はしばしば中東のような無難な市場に向かう傾向がある。」中国向けのレモンの出荷条件が緩和されたとき、業界ではそれを魔法のような解決策だと考えたが、実際には中国はレモンを自給自足しているため、中国に出荷された南アフリカ産レモンの数量は限られていたとこの業者は述べた。

グレープフルーツの暗い見通し

「中国向けには、厳選されたグレープフルーツを限られた量だけ出荷したが、正直言って、それほど目立った成果はなかった。受け取り業者からは、生鮮グレープフルーツの需要が大きく変わったと聞いている。今は多くのグレープフルーツが加工用に向けられており、例えばバブルティーに使われている。」

対中貿易の別の専門家は、以前はグレープフルーツをコンテナで30~35本ほど中国に輸出していたが、今シーズンは需要が少ないために5本だけであったと言う。この専門家は中国経済が圧迫されていることに同意する。南アフリカのグレープフルーツ出荷業者は、加工向け品質や極端に小玉の果実を輸出しないこととしたが、それにもかかわらず中国でのグレープフルーツ価格(出始めの1~2週間を除く)は実際にうまく上がらず、1箱(15kg)当たり100~130人民元(1人民元=約20円)にとどまった。

心配なことに、日本人もグレープフルーツを食べる量が減っているようである。輸出業者らは、日本のグレープフルーツ需要を25%減と推定している。一方、コナカイガラムシを拒絶する韓国でも南アフリカ産グレープフルーツの入荷量が減少した。南アフリカ北部の産地では果汁価格が堅調なことから、シーズンの早い段階でグレープフルーツの輸出を停止した。

執筆者: キャロライズ・ヤンセン